

一般財団法人 全国高等学校PTA連合会 定時総会  
会長挨拶

期日 令和元年6月22日(土)

会場 東京ガーデンバレスホテル

皆さまこんにちは。本日はお忙しいところ柴山文部科学大臣をはじめ多数の方々にご参加いただきありがとうございます。

文部科学大臣がこの全国高等学校PTA連合会総会にお越しいただけるのは初めてのことでして、来年度以降もお越しいただければ幸いです。また、今年は、正に令和元年度の総会が新しい歴史を刻むこととなります。そこに立ち会っていただきました皆さまは大変幸運ではないかと思っています。

この全国高等学校PTA連合会の役割というのは、時代とともに多少変わっていくのだろうと思っています。今更ですが、全国高P連の会員というのは、全国の都道府縣市連の皆さん方でありませす。つまり、全国約4,000校の加盟校が会員になっているのではなくて、その加盟校が共同体で作り上げたそれぞれの都道府市県の連合会が会員ということで、直接、加盟校とつながっている組織ではありません。そのクッションを各都道府市県連の皆様が担っています。そういう意味でこの組織は事業主体の組織ではないということ、連絡調整機関と言いますか、たとえば、本日お見えになっている文部科学省が広く浸透したいということがあれば、そのクッションとして我々の組織が機能してそれぞれの加盟校にお伝えする。その逆もあるわけで、加盟校に色々な問題や課題があると思いますが、それを各都道府市県連が取りまとめていただき、全国高P連にあげ、文科省にお伝えするという役割があると思います。その際、いかに迅速に正確に情報をやりとりすることができるかということが大変大きな課題・役割になります。本日お見えになっている前佐野会長の時から、なんとか早く意思伝達、情報共有できないかということでアンケートシステムの着手に取り掛かりました。おかげさまで昨年ほぼその形が整いまして、いくつか試みをしました。今年は、それをフルに活用して、全国4,000校の声を文部科学省なり、ICT関連であれば総務省、その他の団体等にお伝えしていきたいと思います。直近の成果としては、成人年齢の引き下げに伴って、18歳で成人式をやることの是非について昨年12月にアンケートシステムを使ってやっていただきました。各都道府市県連の皆様にお手数をおかけしますが、今年も推進していきたいと思っています。

さて、現在、会長として全国の地区大会を回らせていただいています。昨日一昨日と福岡の大会へ富山から羽田を経由して行く際、時間があって羽田空港のラウンジで休憩をしていました。そこに30代のご夫婦と1歳、2歳くらいのお子様の4人家族がおりました。元気があり、ラウンジの中で走り回ったり、大きな声をあげたりしていました。私はご両親がどうするのかを見ていましたが、子供が騒ごうが何をしようが全然平気でした。私の推測ですが、お金を払って飛行機に乗るためにラウンジを使っているのだからいいじゃないかという雰囲気でした。でも、それは周囲の人がいるということが全くとんでいるということです。日本人には古来から大事にしてきた公共心とか、周りに迷惑をかけないということがありますが、ご両親は周囲の人がいる中で自分たちが存在していることを忘れてしまっているのではないかと思います。ほんの一例ですが、最近色々な場面でそういうことに遭遇しています。どうしてこのようになったのかを考えると、共有する道徳観というもの薄れてしまったのではないかと思います。色々な原因があると思いますが、敗戦後、アメリカ主導で教育や施策が行われ、日本人の心が変わられたことにも原因があるのではと思いますが、それに負けてはいけません。我々は道徳観というものを各家庭に根付かせて、それを推進していくことがこれからの社会に必要なことではないでしょうか。ICT、Society5.0、AIなどの新たな時代に突入する時に、機械を使うのは人間であって、その人間、我々が道徳観を持っていないと、大義がなくデータばかり集め使っている人たちのようになってしまいます。データを集めて人

の役に立とうという大義があつてこそその事業だと思ひます。そういう大義を持った道徳観というのが、これからの教育に携わつていく者の使命であり、我々の心においておく必要があります。大變僭越で生意気なことを申し上げましたが、是非皆さんと一緒に私たちの子どもたちの明るい未来のために一生懸命活動していきたいと思つております。皆様方のお力をお願いします。どうかよろしくお願ひします。